

県研究主題

楽しい音楽活動を通して、音楽を愛好する心情や感性、音楽的な能力の基礎を育成する
学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 小林 加奈（県央地区）

<研究主題>

音楽のよさを感じ取り 味わって聴く子どもの育成
～思いを豊かに表現し、深める授業をめざして～

1 提案内容

言語活動の充実を図ることで基礎的な鑑賞の能力を養い、児童一人ひとりが鑑賞に能動的に取り組めるよう学習を進めた。

(1) 指導の工夫

言葉で表現することに苦手意識をもつ児童の実態を踏まえ、『イメージ画づくり』『共通事項の意識化』『聴きくらべ』の3つの手立てを授業実践に取り入れた。

① 授業実践

ア 『イメージ画づくり』『共通事項の意識化』を手立てとして

(ハンガリー舞曲第5番→クラス全体 交響曲第5番『運命』→小グループ)

イメージ画を作成させたことはとても有効であり、児童の鑑賞に対する集中力を高め、教員の見取りや指導に生かすことができた。また、描いた意図を発表していく活動では、共通事項と関連付けながら言葉を加えていくことで、仲間との共有を深めることができた。

イ 『聴きくらべ』を手立てとして

(指揮者・演奏者の違う、二つの『運命』の聴きくらべ)

表現する側の思いや意図によって演奏が変わることを学び、自分達の表現に生かそうとする思いが生まれ、卒業式の歌の取り組みにつながった。手立てをより有効に活用するためには、児童の実態把握や投げかけの工夫が必要である。

(2) 質疑応答・意見

- ① 児童の描いたイメージ画を見て、他児童の反応はどうだったか。 → 抽出児を工夫した。抽出児の意見に他児童の意見を加えていくことで、全体でのイメージの共有化を図ることができた。
- ② 他教科との関連について。 → 国語の学習の中で、思ったことを言葉にする（話す、書く）活動を繰り返し丁寧に行ってきた。音楽という形のないものを表現するためには共通事項が大切である。
- ③ 鑑賞が苦手だった児童の変容はどうだったか。 → 前のめりになり、目をつむってリズムをとる姿が見られるようになるなど、聴く姿勢が大きく変化した。また、ある児童が家から持ってきた『運命』のCDを給食の時間に聴くことを提案し、全員が賛同して聴き入るなど、音楽に向き合う姿勢が育った。

(3) 助言

- ・感じる心は一人ひとり必ず違うこと。周りを気にせず自分の考えを大切にする、という取組を一年間続けてきたことや、他教科と関連させながら、児童の感性を育てる活動を積み重ねてきたことがよかった。
- ・六年間でどう育てていくかが大切。低学年で音楽を感じる心の基礎づくりをすることが、中・高学年につながっていく。
- ・教員がどう育てたいかという思いや意図をもち計画的に指導することで、児童の感じる心は大きく変容する。
- ・小学校の音楽は、個の音楽の力だけでなく、共に表現しながら共に育つ教科であり、豊かな情操につながる。音楽を通してたくさんの思いをもち、伝え合えること、楽しさを感じ合える児童を育成することが大切である。

2 協議内容

(1) 思いや意図をもって表現する力や、音楽全体を味わって鑑賞する力を育成する学習指導の工夫

- ・ユニバーサルデザインの考え（聴きくらべ・イメージ化・キーワード掲示をする。）
- ・表現方法の提示（言語化しやすい環境づくりをする。）
- ・児童の実態をとらえた、明確な目標設定（苦手な児童への配慮や主体性を大切にする。）
- ・鑑賞と表現の相互作用（題材構成の工夫をする。）
- ・視覚的表示（挿絵や歌詞→イメージをもたせる。）
- ・イメージ画の有効利用（何回か聴くと、ハートの中の色合いも変わってくるのでは。）
- ・共通事項を意識した指導（音楽室に掲示することも有効。）
- ・身体表現の積み重ね（低学年から。イメージをもたせる。言葉だけでない表現方法も大切。）

(2) 指導と評価の一体化・指導方法等の工夫による授業改善

- ・本物に触れる（本物に触れる機会を意識して学ぶ。なりきってみるのも大事。）
- ・音楽会の活用（低学年児童の高学年児童へのあこがれ。校内での学びを生かす。）
- ・指導と評価の一体化（記録をとる。何を評価するのか明確に。）
- ・ワークシートの工夫（児童の言葉が残るものとして有効である。ねらいをはっきりとし、学習の見通しがもてるものや、児童の思いが分かるようなものにする。）
- ・教員の思いや意図（教材の切り口の違いによって、評価も違う。）
- ・評価（何をA・Cとするのか。→今日できてほしいこと。）（どう支援をして、C→Bにするのか。）
- ・評価の見取り（言語面→文章・発言）（動作面→表情や動き）
- ・児童と担任、児童と専科との関係作り
- ・児童にあった学習計画や目標を考えることの大切さ（何をがんばるのか、見極める大切な視点になる。）

<研究主題>

目標を明確にした指導と評価の一体化を図る授業実践

～「芸術鑑賞会」を軸とした指導計画の作成と見通しを持った評価計画」の作成～

1 提案内容

「芸術鑑賞会」を鑑賞だけで終わらせずに有効活用したいということから、児童の鑑賞・表現に対する興味や関心を高める学習の動機付けとし、またそれを目標の姿として設定することでその後の自分たちのアンサンブルに主体的に取り組んでいこうとするもの。

小学校音楽科学習指導要領5. 6年A表現(2)エの内容を中心に設定。

(1) 提案の柱 ①「芸術鑑賞会」を軸とした指導計画の作成

②音楽科における「見通しを持った評価計画」の作成

(2) 題材名「アンサンブルのみりよく～結成！高坂フィルハーモニーオーケストラ」～

(3) 題材の目標 各楽器の音色や役割の違いを捉え、音の重なりや響きを味わいながら、鑑賞したり表現したりすることができる。

(4) 成果と課題

①成果

- ・芸術鑑賞会は、鑑賞・表現の各活動の動機付けとして効果があった。
- ・「合わせて演奏する能力の育成」にも効果があった。
- ・最後まで目標がぶれることのない授業づくりができた。

②課題

- ・「本物」(プロのオーケストラ)の特性を理解し、十分に計画を練る。そのためにも年間指導計画を立てる時点で見通しをしっかりと立てなければならない。
- ・「本物」以外にも児童が主体的に学ぶ手立てを考えたい。
- ・ワークシートを多用しすぎた。→評価方法を検討
- ・目標を明確にするために年間指導計画の重要性を再確認した。

2 協議内容

○発表についての質問

- ・「目標」ということをどう考えているか。
→音楽に限ったことではないが、教員としては、身に付けさせたい力。児童としては、めあて、課題。
- ・単元「アンサンブルのみりよく」では、合唱指導も行ったのか？
→器楽の方が目標をもちやすいだろうと考え、今回は器楽を指導し、合唱は次回に入れかえた。
- ・プロのオーケストラと児童の現状では状況がかけ離れすぎてはいないか？もっと身近な演奏の方が目標をもちやすいのではないか。
→せっかくの「本物」を聴く特別な機会を有効に使おうと思った。
プロの演奏の、音を合わせるという活動に注目させたかった。

・ワークシートは？

→「工夫」の時…音をきれいに重ね合わせるための作戦、友達の演奏の気付いた事等を書かせた。

「技能」の時…今日の目当てと振り返りなど毎時間使用した。

3 助言

・教員が目標を明確にすること。

→何を指導するのか、身に付けさせたい力は何なのかを明確にすること。

・児童の言葉をよく聞いて次につなげる授業。

→児童の話を良く聞き、そこから様々なことを引き出していた。ねらいに迫るためには、児童が「できるようになりたい」と感じる仕掛けを作ることが大切。

・ねらいにあった音源を探すこと。

→指導書にあるものだけでなく、教員同士で情報共有していくことも必要。

→楽譜も教科書にあるからという理由ではなく、児童の実態にあったものを選ぶことも大切。

・アンサンブルの取組について。

→オーケストラの生演奏を聴くことで、鑑賞と演奏を関連付けてイメージを膨らませることができた。

→イメージをもって演奏するということに加えて、楽器の演奏の仕方など、基礎的な部分を、活動を通して学ぶ必要がある。

・感性の大切さ。

→感じさせただけでは深い学びにはならない。深い学びにつなげていくためには、教員が価値付けをしてあげることや関連付けることが大事。

・低学年からの積み重ねの大切さ。

→「音楽を楽しい」と感じる経験を、低学年（幼稚園）の段階からたくさん積み重ねていくことで、中学校での学びにつながっていく。

・「聴（聞）く力」の大切さ。

→すべての教科において言えることだが、音楽科においても、聴くということを常に意識していく必要がある。

・これからの時代に生きる子どもたち。

→教員の指示通りにできる児童像だけではいけない。これからは、その先に創造していきける子どもを育てることが大切である。音楽科が担う役割は大きい。